



9:1 さて、エルバアルの子アビメレクは、シェケムにいる自分の母の身内の者たちのところに行き、彼らと母の一族の氏族全員に告げて言った。

9:2 「どうかシェケムのすべての者に、よく言って聞かせてください。エルバアルの息子七十人がみなで、あなたがたを治めるのと、ただひとりがあなたがたを治めるのと、あなたがたにとって、どちらがよいか。私があなたがたの骨肉であることを思い起こしてください。」

9:3 アビメレクの母の身内の者たちが、彼に代わって、これらのことをみな、シェケムのすべての者に言って聞かせたとき、彼らの心はアビメレクに傾いた。彼らは「かれは私たちの身内の者だ」と思ったからである。

9:4 彼らはバアル・ベリテの宮から銀七十シェケルを取り出して彼に与えた。アビメレクはそれで、ごろつきの、ずうずうしい者たちを雇った。彼らはアビメレクのあとについた。

9:5 それから、アビメレクはオフラにある彼の父の家に行って、自分の兄弟であるエルバアルの息子たち七十人を一つの石の上で殺した。しかし、エルバアルの末子ヨタムは隠れていたので生き残った。

9:6 それで、シェケムの者とベテ・ミロの者はみな集まり、出かけて行って、シェケムにある石の柱のそばの榿の木のところ、アビメレクを王とした。

9:7 このことがヨタムに告げられたとき、彼は行って、ゲリジム山の頂上に立ち、声を張り上げ、彼らに叫んで言った。「シェケム

の者たち。私に聞け。そうすれば神はあなたがたに聞いてくださる。

9:8 木々が自分たちの王を立てて油をそそぐと出かけた。彼らはオリーブの木に言った。『私たちの王となってください。』

9:9 すると、オリーブの木は彼らに言った。『私は神と人とをあがめるために使われる私の油を捨て置いて、木々の上にそよぐために出かけなければならないだろうか。』

9:10 ついで、木々はいちじくの木に言った。『来て、私たちの王となってください。』

9:11 しかし、いちじくの木は彼らに言った。『私は、私の甘みと私の良い実を捨て置いて、木々の上にそよぐために出かけなければならないだろうか。』

9:12 それから、木々はぶどうの木に言った。『来て、私たちの王となってください。』

9:13 しかし、ぶどうの木は彼らに言った。『私は、神と、人とを喜ばせる私の新しいぶどう酒を捨て置いて、木々の上にそよぐために出かけなければならないだろうか。』

9:14 そこで、すべての木がいばらに言った。『来て、私たちの王となってください。』

9:15 すると、いばらは木々に言った。『もしあなたがたがまことをもって私に油をそそぎ、あなたがたの王とするなら、来て、私の陰に身を避けよ。そうでなければ、いばらから火が出て、レバノンの杉の木を焼き尽くそう。』

ギデオンの息子であるアビメレクは母方の身内にそそのかし、資金を手に入れてごろつきを雇い、父であるギデオンの息子すなわち自分の異母兄弟たちを殺しました。ただ1人難を逃れたヨタムは

アビメレクを王とすることの愚かさや悲劇とを宣言しました。

ここにいたるまでにはいくつもの問題点が重なっています。まずギデオンが神ご自身やそのみことばよりも、エポデという目に見えるものを勝利の象徴としてことです。それによって民は神とその御心を忘れるようになってしまいました。

またギデオンにはたくさんの妻がおり、その家庭生活が健全ではなかったのです。その環境で女奴隷から生まれたのがアビメレクでした。身内の者たちも神の御心よりも、「身内のものだ」という心情に流されてしまいました。

これらのことから私たちは警戒を与えられす必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

